

単元名 たし算とひき算

配当時間 4時間

単元の目標 (1) (2位数) \pm (2位数) や、 $100 -$ (2位数) の暗算の仕方を理解し、暗算で計算を行うことができる。
 (2) 暗算の仕方を考えたり、説明したりすることができる。
 (3) 暗算のよさが分かり、日常生活の中で進んで暗算を活用しようとする。

標準的な展開例

03040110_001

【準備等】ティッシュの箱（計算ボックス），数字カード，＋カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1～2 (2位数) $+$ (2位数) の暗算をする。 [p. 90] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ たし算を暗算でしてみよう。 ○ $35 + 2\square$ の答えを予想する。 ○ $73 + 42$ の計算の仕方を話し合う。 ○ 「練習問題」に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上の位から計算することの便利さを自然に感じられるようにするために、既習事項の計算から扱う。 ・ 加数の上位だけを示し、答えが55～64の間になることを確認する。 ・ $73 + 40 = 113$，$113 + 2 = 115$ という計算の手順を身に付けさせる。 ・ $73 + 41$ の場合、暗算できない児童には、最初のうち $73 + 40 = 113$ の113をメモさせる。そして、次第に暗算に慣れさせる。 【評】 加法の暗算を行う活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 減数の上位だけを示し、答えの予想を立ててから計算させる。 ・ 計算ボックスを利用し、児童の関心を高める ・ 減数の上位だけを示し、答えが45～36の間になることを確認する。 【評】 計算の仕方を話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ ひく数と合わせて100にして差を求める方が筆算よりも簡単であることに気付かせる。
3～4 (2位数) $-$ (2位数) と $100 -$ (2位数) の暗算をする。 [p. 91] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ ひき算を暗算でしてみよう。 ○ $65 - 2\square$ の答えを予想する。 ○ $100 - 43$ の計算の仕方を話し合う。 ○ 「練習問題」に取り組む。	

【 備 考 】

本単元では、暗算の方法として、大きい位の方から計算する「頭加法」「頭減法」で行う。そのため、筆算とは手順が異なり、戸惑う児童も予想される。そこで、計算ボックスを用意し、初めは加数や減数の十の位の数だけを入れ、答えがおおよそいくつになるか予想させるとよい。その際、答えになりうる範囲も考えさせることで、十の位の数が増える（減る）ことにも気付かせたい。その後に一の位を入れ、全体を計算させるとよい。また、教師が類題を用意するなどして、計算に慣れさせることが必要である。